

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和6年3月定例会

議席番号8番  
島 明日香議員

1. 出雲崎版こども条例の制定について

町では、早い段階から「こども家庭センター」としてきらりが子育て支援の中核を担ってきた。子ども子育てに関する各支援施策や、産前産後のきめ細かい支援、中学生には公設学習塾の開設など、県内でも他に先駆けて子ども子育てに関する支援に力を入れてきたことは、県内外からの視察の多さを見ても評価されるべきものである。

国では、こども基本法が令和5年の4月に施行され、この動きに連動し新潟県でも昨年9月にはこども条例（仮称）のたたき台ができたり、新潟市ではすでに「新潟市こども条例」が制定されている。

以上のことから、当町でも「子ども子育て応援宣言」だけではなく、少子化対策はもちろん、10年先の未来を見据えた町独自のこどもに対する支援施策や課題解決に向けて、次なる一手を打つタイミングであると考え

る。

これをふまえ、以下のことについて問う。

(1) 出雲崎町の出生数の推移、児童虐待件数、不登校件数、ヤングケアラーの推移と実態について伺う。

(2) 当町の保育園、こども園が現在の保育の質と運営を維持していくための策について。

①町独自の補助金や加算等を設けていく考えはあるか。

②障がい児保育事業についての加配保育者の資格の有無を緩和する考えはあるか。

(3) こども基本法をもとにした包括的なこども施策の展開について。

①「出雲崎こども条例（仮）」を制定する必要性について町長の認識を伺う。

②こどもの主体的な参加と意見の吸い上げが重要であるが、その必要性について伺う。

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和6年6月定例会

議席番号8番  
島 明日香議員

1. 当町のユニバーサルツーリズムについて

年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく旅行が楽しめるよう、町として受入体制を整えたり、情報発信をより積極的におこない、当町の観光に対する付加価値を高めていく必要もあると考える。また、障がい者差別解消法が改正され、今年4月1日から事業者による障がいのある方への合理的配慮の提供が義務化された。

※合理的配慮の提供とは、行政機関や事業者が、障がい者から「社会的なバリアを取り除いてほしい」旨の意思の表明があった場合、その実施に伴う負担が過重でないときに社会的なバリアを取り除くために必要かつ合理的な配慮が求められるもの。

これをふまえ、以下のことについて問う。

(1) 出雲崎町における、障がい者差別解消法を土台にしたまちづくり条例制定について町長の所見を伺う。

(2) 障がいがある方、乳幼児を連れての来訪者の受け入れ態勢について。

①町内観光施設や公共施設など受け入れ態勢整備は何%程度進んでいると考えるか。

②ユニバーサルツーリズムの推進に関する気運を醸成するため、事業者や地域、学校等で体験的な勉強会開催の考えはあるか。

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和6年9月定例会

議席番号8番  
島 明日香議員

1. 町消防団について

現在、消防団の定員は158名のところ146名が活躍されている。どの分団も高齢化やなり手が不足しており、全国的に増加傾向にある女性団員もなかなか増えないのが現状である。

地域に密着している消防団だからこそいざというときに頼りになることは、元日の地震でも実感されたと思う。

今後は、団員を増やす試みと同時に、少ない定員でも活動を維持していく体制整備も必要であると考えている。

これをふまえ、以下のことについて問う。

(1) 「機能別団員」導入と団員資格の緩和についての考えはあるか。

※機能別団員とは、災害対応、訓練、機器の保守の他にも、予防広報班、応急救護班、ジュニア消防団育成班、機甲班など、得意分野や資格を活かした役割別の班をつくること

(2) 火災発生時の出動要請や出動可能の可否連絡の効率化を図るためのアプリ導入についての考えはあるか。

2. にしやま・いずもどき通勤通学ライナーについて

「通勤通学」という名前が付いていることや運行コースを鑑みても、利用する可能性の高い海岸地区や、子育て世代への周知が足りないと感じる。今年3月定例会で約112万円の予算審査を通過したが、その際も発着場所について質疑があり、利用状況によっては変更も検討するとの答弁であった。これをふまえ、以下のことについて問う。

(1) 利用状況

(2) 周知方法と町民の反響

(3) 通学費助成の対象にする考えはあるか

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和6年12月定例会

議席番号8番  
島 明日香議員

1. 安全にスポーツを楽しめる空間づくりについて

多世代交流館きらりや屋外こども広場「すまいるパーク」が開設され、小さなこどもたちがのびのびと遊ぶ場所は整備が進んでいる。

しかしながら、放課後や休日に体を動かして気軽にスポーツを楽しみたい小学生や中学生の肩身が狭くなっている。児童クラブや放課後こども教室の利用は、親にとっても安心できる場所の一つになっているが、自由にボールを蹴ったり投げたりできる場所が少ないことが現状である。

そこで、以下のことについて問う。

(1) こどもたちが、安全かつ楽しめるボール遊びに特化した空間づくりについて町長の所見を伺う。

①広い緑地を新設、または整備する考えはあるか伺う。

②屋内でも野球ボールを使える場を確保する考えはあるか伺う。

(2) 多目的運動場や野球場を、町内のこどもたちがより使いやすい設定や整備をしていく必要があると思うが町長の考えを伺う。

(3) こどもたちの体力向上のため、また、町のスポーツ振興のために今後どのような取組や工夫をしていくか。